

告177-10
(告177-4の反訳)

山内：いずれにしてもそういうふうにしてちょっと決断しましたそこに関しては俺、率直に申し上げて、

野村：『俺』って言うのはやめません。そのね、なんか、いかにもね、親分子分でやるような言い方はね。一応、僕は、お客さんみたいなもんですからね、あなたの部下でもないしね。私ぐらいにしませんかね。

山内：いいですよ。

野村：すごい気分が悪い。そんな言い方されると、僕はあなたの部下じゃないよ。あんたの下に立ってるわけじゃないよ。

山内：私も貴方に使われていない。

野村：僕は、『俺』なんていう言葉を使いました

山内：『俺』がダメっていうの、ちょっと、よく分かんないすけど。失礼な言葉を

野村：麻生太郎がね、よくね、『俺』って言いますよ、麻生太郎がテレビでね、自分は偉いんだからね、俺というあれはね、あれはやっぱ反発反発受けてる人いますよ。言っても無駄だったら、別にいいですけどね。あなたが、それでいいと思うんだったら、通せばいいよ。僕はすごく不快だけど。

山内：それはお互い様だ。

野村：『俺』と言いました？僕が。

山内：『俺』のことじゃないですよ、あなたのその口調が不快です、ということ。

野村：僕はね、努力している。

山内：なにもかも自分が中心で、自分の考え以外は受け入れない、自分の考えが全てだ、そういう言い方を今、みんな感じてると思いますがけども。言わないだけで。それがまず不快ですね。

野村：あのね、あのね・・・

山内：人の話は全く、聞こうともしない態度が、私達にとって不快だ、それは私の

感覚ですよ。(不明)それはお互い様ですから、それぞれ個人の感じですから、

野村：あのね・・・

山内：あなたが、『俺』っていうのを嫌、もしかしたら、AさんBさん 『俺』は
ぜんぜん気にしないって人もいるかもしれません。

野村：それはいるでしょう。

山内：お互いの感覚ですから。

野村：一般的なね・・・

山内：あなたのその態度っていうのは、すごい・・・

野村：一般ね、売り言葉に買い言葉のつもりで言ってるんでしょうけどね、一般的
なね、社会マナーとしてね、『俺』っていう言葉は使いませんよ。

山内：ああそうですか。

野村：一般的な社会マナーとしてね。僕はね・・・

山内：そんなこといいんじゃないですか。これに話したら

山内：あなたがね、売り言葉をするからですよ。余計なことは、やめてもらえませ
んか、余計な言葉。

山内：私はお話を戻しました。